

高野山霊宝館からのお知らせ



ミュージアム法話開催風景
(高野山本山布教師 永田道範師)

◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説)を、左記のとおり開催いたしました。

- 5月14日(土) 講師 神保博舟 師
 - 6月11日(土) 講師 西野寛山 師
 - 7月2日(土) 講師 森田泰澄 師
 - 7月23日(土) 講師 河合了宣 師
 - 8月6日(土) 講師 中原慈良 師
 - 9月10日(土) 講師 永田道範 師
 - 10月22日(土) 講師 阿部眞秀 師
 - 11月26日(土) 講師 齋藤寛秀 師
- いずれも午後1時より約45分
今後の開催予定



霊宝館長スペシャル・ギャラリートーク開催風景
(大森照龍館長)

◎霊宝館長スペシャル・ギャラリートーク 開催

大森照龍霊宝館長によるスペシャル・ギャラリートークを開催し、多くの拝観者に展示解説をお楽しみいただきました。

8月27日(土)
講師 大森照龍 館長

◎高野山霊宝館公式YouTube

高野山霊宝館公式YouTubeに、霊宝館長が展示解説を行う動画がアップされました。皆さま、チャンネル登録(チャンネル名「高野山霊宝館」)して、霊宝館収蔵の文化財の解説をお楽しみください。
・展示解説『承久記絵巻』(前編)
・展示解説『承久記絵巻』(後編)
・展示解説『重要文化財 毘沙門天立像 不動明王立像』
・展示解説『重要文化財 大日如来坐像』

◎外部展貸し出し情報

- 鎌倉国宝館
「特別展 北条氏展 Vol.3 北条義時とその時代―義時と実朝・頼經―」
令和4年9月3日(土)～10月23日(日)
未指定 承久記絵巻 巻1 龍光院
- 三井記念美術館「大時絵展」
令和4年10月1日(土)～11月13日(日)
国宝 澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 金剛峯寺
重文 花蝶蒔絵念珠箱 附・念珠2連 金剛峯寺
- 愛媛県美術館
「弘法大師空海誕生1250年記念 国宝 高野山金剛峯寺展」
令和4年10月1日(土)～11月20日(日)
国宝 諸尊仏龕 金剛峯寺
国宝 八大童子立像のうち 恵光童子・鳥俱婆談童子 金剛峯寺 他
- 五島美術館
特別展「西行―語り継がれる漂泊の歌詠み―」
令和4年10月22日(土)～12月4日(日)
国宝 宝簡集巻23 僧円位(西行)書状 金剛峯寺

◎友の会会員限定 東京別院秋季金剛界 結縁灌頂開壇のお知らせ

高野山東京別院における東京別院秋季金剛界結縁灌頂開壇に際し、霊宝館友の会会員限定で募集させていただきます。

開壇日 令和4年11月25日(金)～27日(日)

入壇料
事前申込1名 10,000円
当日申込1名 12,000円

受付期間
令和4年10月17日(月)～21日(金)
午前9時から午後4時まで

申込方法
霊宝館に電話申込み。詳細については、霊宝館にお尋ねください。

◎記事の訂正

令和4年7月10日発行の「震宝館だより」139号に誤記がございました。左記のとおり、訂正させていただきます。
8頁「ミュージアム法話 開催」の上段挿図「ミュージアム法話開催風景」のキャプションにおいて
誤(高野山本山布教師 岡本博舟師)
正(高野山本山布教師 神保博舟師)

お問い合わせ先 高野山霊宝館 TEL 0736-56-2029(代)

震宝館だより

題字・翁野光義師

霊宝館だより 第140号
令和4年10月10日発行
和歌山県伊都郡高野町高野山306
公益財団法人高野山文化財保存会
高野山霊宝館
電話0736-56-2029
URL <http://www.reihokan.or.jp>

利用案内

- 開館時間
5月1日～10月31日 8時30分～17時30分
11月1日～4月30日 8時30分～17時00分
- 休館日 年末年始
(展示替えに伴い臨時休館あり)
- 拝観料 大人 1300円
高・大学生 800円
小・中学生 600円
高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。
(住所記載の証明書提示要)
■専用駐車場のあり

令和4年度 秋期企画展
「仏を護る入れ物
～納める・容れる・包む～」
令和4年10月15日(土)～
令和5年1月15日(日)

第140号 目次

- 企画展のご案内……………2～3
- 高野山の考古学(二十七)……………4～5
- 収蔵品の紹介110……………6
- 霊宝館日記……………7
- 高野山霊宝館からのお知らせ……………8

毎月21日(弘法大師の日)ご来館の方にプレゼント差し上げます。

「重文 舞楽装束類(金剛峯寺)の「蚕絵袍」の部分。前期展示(10月16日～11月27日)





重文 執金剛神立像 像内納入宝篋印陀羅尼 金剛峯寺



重文 輪宝羯磨巴紋蒔絵箱 金剛峯寺〔前期〕



重文 舞楽装束類(蛮絵袍) 金剛峯寺〔前期〕



金銅装梵字宝相華文説相箱 宝寿院



重文 舞楽装束類(牡丹唐草に向蝶丸文様前掛) 金剛峯寺〔後期〕



重文 釈迦如来及諸尊像(枕本尊) 普門院〔前期〕 中国・唐時代の精緻な彫刻



香合仏(文殊菩薩像・普賢菩薩像) 龍光院 携帯できる香木を用いた守り本尊



重文 深沙大将立像 金剛峯寺 像内には墨書された陀羅尼を納入



高野山寺領内参詣道絵図 金剛峯寺 広大な高野山の寺領と参詣道を図示

令和四年度 秋期企画展

「仏を護る入れ物」納める・容れる・包む」

令和4年10月15日(土)～令和5年1月15日(日)

前期 令和4年10月15日(土)～11月27日(日)

後期 令和4年11月29日(火)～令和5年1月15日(日)

休館日 令和4年12月28日(水)～令和5年1月4日(水)

※関西文化の日に協賛し、11月21日(月)を無料開館日とします。

仏や経典などには、これらを保護するために、納めたり、容れたり、包んだりする、様々な形の「入れ物」が存在します。時には、中身より入れ物の方が、煌びやかで、歴史的価値があり、造形が優れているものもあります。
ですが、これらは造形美や保存状況、また一見したただけの印象の優劣で価値が決まるものではありません。中身と入れ物が一具(一セット)のものとして、今日まで伝世していることに文化財としての価値があり、そのことが歴史的に重要な意味があるものもあります。
今回の展覧会は、文化財とそれを護る入れ物を併せて鑑賞することで、文化財の持つ秘められた価値に注目し、ご紹介いたします。

主な展示品

- 彫刻
重文 執金剛神立像 深沙大将立像 金剛峯寺
重文 釈迦如来及諸尊像(枕本尊) 普門院〔前期〕
重文 文殊菩薩及使者像 遍明院〔後期〕
重文 香合仏(文殊菩薩像・普賢菩薩像) 龍光院
絵画
復元 両界曼荼羅図(血曼荼羅) 金剛峯寺
高野山寺領内参詣道絵図 金剛峯寺
工芸
重文 舞楽装束類(蛮絵袍) 金剛峯寺〔前期〕
重文 舞楽装束類(牡丹唐草に向蝶丸文様前掛) 金剛峯寺〔後期〕
県指定 菊花牡丹文透彫箱 金剛峯寺

- 書跡
輪宝羯磨巴紋蒔絵箱 金剛峯寺〔前期〕
戒体箱 宝寿院〔後期〕
金銅装梵字宝相華文説相箱 宝寿院
朱塗厨子入宝塔舍利殿 龍光院
五鈷杵(舍利奉籠) 龍光院

- 書跡
国宝 金銀字一切経(中尊寺経) 金剛峯寺〔前期後期入替〕
国宝 宝簡集 続宝簡集 又続宝簡集 金剛峯寺〔前期後期入替〕
重文 高麗版一切経 金剛峯寺〔前期後期入替〕
重文 執金剛神立像 深沙大将立像 像内納入宝篋印陀羅尼 金剛峯寺

民俗資料
国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料 圓通寺
※期間中、一部展示替えを行います。
※文化財の保存上、展示品が変わる場合があります。
特集展示
「画僧が描いた絵画」
僧侶が描いた、もしくは僧侶が描いたと伝えられる絵画を展示いたします。

今後の展覧会
企画展
「密教の美術」
令和5年1月21日(土)～4月9日(日)

関連イベント
※ミュージアム法話
日時 10月22日(土)、11月26日(土)
13時より(約45分)
講師 高野山本山布教師
※ミュージアム探検ツアー&トーク
学芸員による霊宝館敷地内の展示棟と収蔵庫の屋外見学と展示解説。
日時 11月5日(土)、12月3日(土)
14時より(約1時間)
講師 当館学芸員

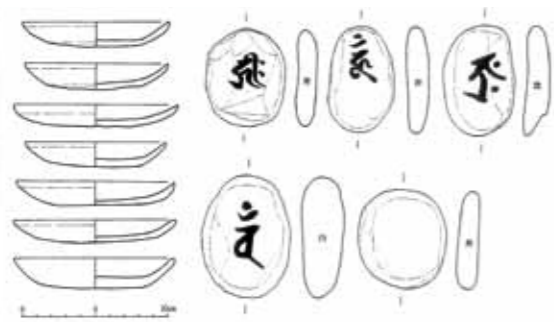


図2 方形土坑出土 土師器小皿と梵字を記す小石

く三〇センチという大きさです。中央にあったものは白色の石で、表面に「バン」(金剛界大日如来)という梵字を墨書して置きました。東側は青色の石で「ウーン」(阿閼如来)、南側は黄色味を帯びた白い石で「タラク」(宝生如来)、西側は赤色系の石で「キリーク」(阿弥陀如来)、北側は黒色の石のため墨書が見えにくく「アク」(不空成就如来)と推定されています。金剛界の五仏を梵字と石の色によって表現しています(図2)。

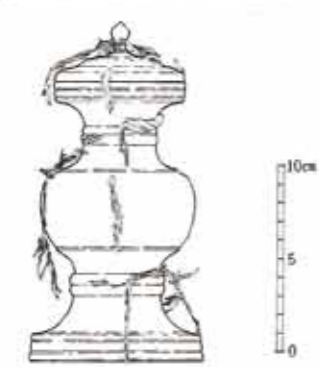


図3 方形土坑出土 賢瓶

さて、狭いトレンチの中で偶然発見された重要な遺構ですが、前回までに見た地鎮遺構の配置から考えると、当初は中央の土坑を囲むように、四ヶ所か八ヶ所に楕円と輪宝を刺した小穴があったのではないかと思われます。中央の土坑と東西で見つかった小穴を計測してみると、土坑の中心からどちらにもほぼ三・五メートルの位置

遺構の復原

です(図3)。これらは五宝(一般に金・銀・真珠・珊瑚・琥珀など五種の宝の総称で、各種の説がある)、五葉(葉の材料を代表する五種で、一説には草・木・虫・石・穀の五種をいう)、五香(密教で灌頂に使う五種の香で、梅檀・沈水香・丁香香・安息香・鷄舌香など修法の種類で異なるという)、五穀(人が常食とする五種の穀物で、米・麦・粟・豆・稗など諸説がある)と考えられています(一)内は主に『広辞苑』から引用。

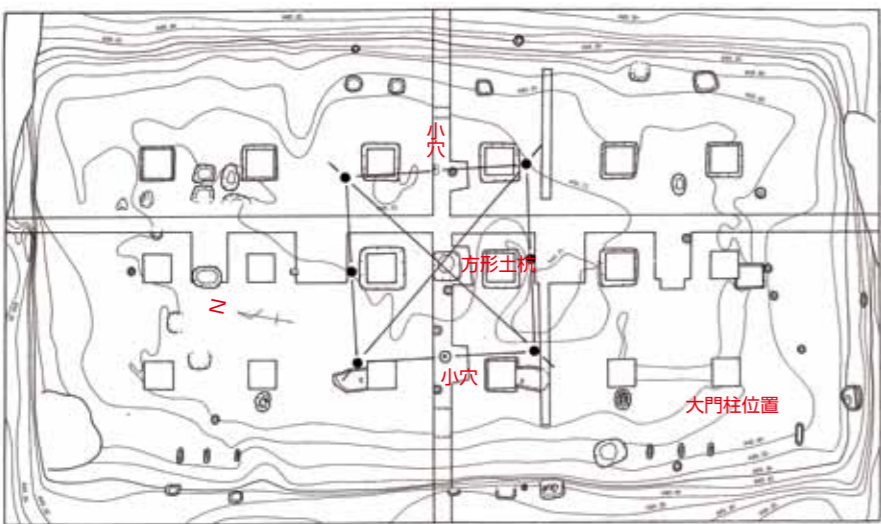


図4 大門の中央で見つかった地鎮遺跡、その推定位置(●)

にありますので、正しく計測して配置されたことが想定されます。この輪宝を乗せた楕円を突き刺した遺構は、前回に紹介した徳川家霊台で行われた地鎮の作法と同じものと思われる。しかも中心に賢瓶を埋納しているとなると、家康霊屋の配置が参考になると思います。つまり発見された東西二つの小穴は、東辺の中央と西辺の中央に位置すると仮

定し、中央の土坑と小穴との距離を参考にして推定すると、図4のようになります。残りの六ヶ所は偶然にも調査のトレンチが設定されなかった場所に該当しているため、この時の調査では発見されなかったでしょう。

ちなみに、徳川家霊台の地鎮が行われたのが寛永九年(一六三二)頃ですから、大門で実施された地鎮とは六五年余りの時間差があります。しかし、その作法の中身は共通していますので、真言宗の正当な地鎮の作法が、正しく受け継がれ実行されていることが分かります。

【参考文献】

- 和歌山県文化財研究会 編一九八六『重要文化財金剛峯寺大門修理工事報告書』高野山文化財保存会
松田正昭一九八四『和歌山における地鎮・鎮壇の遺構』『古代研究』第二八・二九号、元興寺文化財研究所

高野山の地鎮遺構④

大門出土の地鎮遺構

大阪大谷大学文学部歴史文化学科

狭川 真一

高野山の西の玄関口には大門が建っています。現在の大門は宝永二年(一七〇五)に落慶したもので、元禄十年(一六九七)からその建設が始まりました。それ以前は、貞享五年(一六八八)、天正五年(一五七七)にそれぞれ焼失しましたが、その都度再建されてきました。天正以前は鎌倉時代後期の製作と見られている「高野山山水図屏風」に描かれているので、鎌倉時代までは遡るとみられています。

現在の大門は、昭和五六年度から解体修理が行われ、その工事途中に地下の発掘調査が実施されました。今回はその折に出土した、地鎮・鎮壇(以後、地鎮とします)の遺構と遺物についてご紹介いたします。

見つかった遺構

解体修理により大門が撤去された段階で、建物の中心部分の発掘調査



写真1



写真2



写真3

が行われました。調査は建物全面ではなく、門の中央を貫通する東西南北方向のトレンチ(調査区域のこと)と、中央やや東寄りを貫通する形で南北方向のトレンチが設定されました。その東西方向のトレンチの中央、つまり大門の中心部分で一辺一・四メートル、深さ五〇センチほどを測るやや不整形な方形土坑(穴)が確認され、掘り下げると穴の中ほどの深さで土師器の皿が七枚(中央に一枚、それを取り囲むように六枚)が出土しました(写真1)。それを除去しますと今度は、長さ一〇センチ足らずの川原石が五つ、賽子の五の目状に配置され

て出土しました(写真2)。そして中央の石の下には賢瓶と呼ばれる銅製の小壺が安置されていました。さらにこの方形土坑の東側と西側へそれぞれ三・五メートル離れた位置に、直径一五〜一七センチ、深さ一四〜二〇センチの小穴があり、楕円の片方の先端に輪宝を乗せた埋納物が見つかりました(写真3・図1)。

出土した遺物

中央の方形土坑から出土した遺物から説明します。まず土師器の皿ですが、口径九・七〜一一・三センチ、高さは一・七〜二・〇センチ。皿には炭化物が乗せられていたようですが、詳細は分かっていません。

次に川原石を見ます。すべて楕円形を呈していて、長さ六・五〜八・四センチ、幅四・五〜六・一センチ、厚さ一二

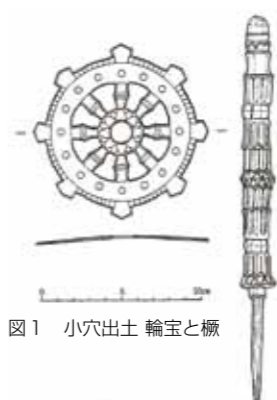


図1 小穴出土 輪宝と賢

と考えられます。つまり現在の大門建設にあたり実施された、地鎮の遺構だと理解できるのです。

国宝二十一件、重要文化財一四八件を含む約十萬点の文化財を所蔵する霊宝館では、毎年何件かの他館への文化財の貸出があります。文化財貸出時と返却時には、毎回文化財の現在の状況を、霊宝館の職員と、借りに来られた博物館の職員で確認します。古くから残るものですから傷みのあるものもあり、「表装のこの部分が傷んでいますね。」とか「本紙のこの部分に折れが生じていますね。」といった確認をします。貸出時に確認したものを調書にまとめます。返却時にその調書と文化財を見比べて、文化財に貸出時には存在しなかった新たな損傷がないか、確認し合います。

この確認作業で時間がかかるのが巻物。それも複数の古文書を一つにまとめた巻物は非常に時間がかかります。展示したいのは巻物の中の一つの古文書なのに、他の古文書の箇所もすべて確認しなければならぬからです。



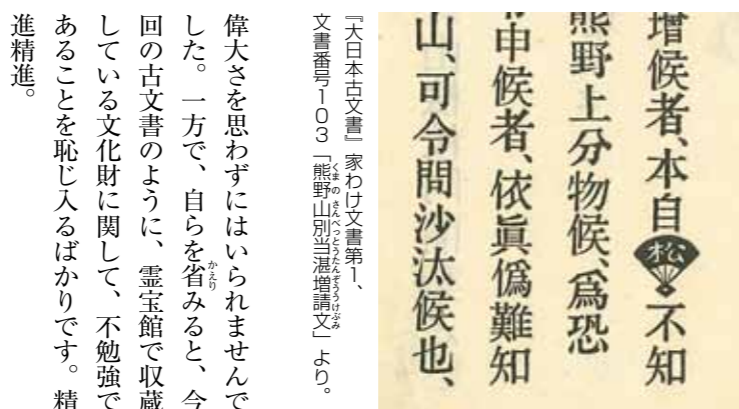
經典に虫損あり。一つ一つ調書に記します。

ある博物館へ貸し出す文化財を確認作業中のこと。その時もいくつもの古文書をまとめた巻物がありました。あまりの長さに不真面目にも「まだまだ先は長いな。」と感じていた時、目についたのは、展示する古文書ではなく、黒い扇に白字の「松」の判。「珍しい。」これは誤字を消して、上から判を押し込んだんじゃないか。」と本来の業務から外れて、し



展示箇所ではないですが、思わず写真を撮りました。

後日、その古文書を活字化した史料集『大日本古文書』で、どんな風に活字化しているのかを確認したところ、扇の判をしっかりと再現していませんでした。どんなことでも忠実に後世に残るよう活字化した、先人たちの



（研谷昌志）

「大日本古文書 家わけ文書第1、文書番号103「熊野山別当温増調文」より。偉大さを思わずにはいられません。一方で、自らを省みると、今回の古文書のように、霊宝館で収蔵している文化財に関して、不勉強であることを恥じるばかりです。精進。

霊宝館日記

収蔵品の紹介 110

国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料

1万2,312点（木製五輪塔1万2,156点、関連資料156点）

江戸時代（19世紀） 圓通寺蔵

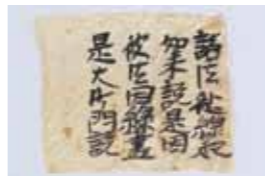
知られざる納骨信仰の形が明らかに



小型木製五輪塔（正面）



小型木製五輪塔（底部には「八万四千（宝塔）」のほか、地名などが墨書されています。）



法舍利として塔内に奉安された「法心偈」



高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料

平成三十一年（二〇一九）四月十日、圓通寺の本堂の須弥壇の下から、十六箱の木箱に納められた一万二千二百五十六点もの、小型の木製五輪塔（高さ約九cm）などが発見されました。木箱の一部には「寶塔八萬四千」、また五輪塔の地輪の底部に「八万四千」と墨書されていることから、建立当時は「八万四千宝塔」と呼ばれていたようです。また、木箱には、圓通寺の住職であった龍海（？—一八二〇）が造塔を發願し、その後の天保七年（一八三六）に住職となった隆鎮（？—一八五四）が五輪塔を木箱に収めて、奉安したことが記されています。

五輪塔の構造は一木造で、基本的に正面には五大（空・風・火・水・地）を表す梵字（キヤ・カラ・バ・ア）が墨書されています。五輪塔の構造は一木造で、基本的に正面には五大（空・風・火・水・地）を表す梵字（キヤ・カラ・バ・ア）が墨書されています。四、四面すべてに梵字が墨書されています。また、地輪の底部には、穴が穿つてあり、木栓で穴が塞がれています。一部の五輪塔には、木栓が抜けていて、内部には、木栓が抜けていて、穴の内部を調べてみると、小さく畳まれた紙が見つかりました。さらに、紙を広げてみると、小さい文字で「法心偈」という、短い経文が墨書されていました。このような五輪塔には、内部に「仏舎利」と呼ばれる、亡くなった方の遺骨や歯を納め、供養塔として祀る場合が多いですが、今回見つかった五輪塔の内部からは、経文が見つかりました。このような経文は遺骨の代わりを意味し、「法舍利」と呼ばれるものです。平安時代後期（一二世紀）から現代にいたるまで、高野山は全国から様々な人々が弘法大師を慕って、納骨が行われてきました。

納骨と言え、奥之院の広大な霊場での、石製の五輪塔などの供養塔が思い浮かびます。しかし、古来より、納骨という行為は奥之院地区、また屋外の供養塔への奉安に限らず、各子院の本堂などの屋内へも納骨器や舍利器という形で行われてきました。このような納骨された様々な信仰対象物を概観すると、屋外、屋内、また地上、地下を問わず、山上の霊場としての結界の範囲のあらゆる空間に、「仏舎利」、「法舍利」が様々な形で奉安されてきたことがわかります。また、ほとんどの地輪の底部には、「八万四千（宝塔）」のほか、施主名、供養対象者の法名や俗名、施主や供養対象者の居住していた国や村の地名などが墨書されています。地名に関しては、言いますと、「但州」(但馬国・兵庫県の一部)、「淡州」(淡路国・徳島県の一部)、「阿州」(阿波国・福井県の一部)、「能州」(若狭国・福井県の一部)、「能州」(能登国・石川県の一部)、「佐州」(佐渡国・新潟県の一部)、「江戸」(東京) などがあり、かなり広範囲の人々に対して、高野山への五輪塔の奉安を勧進したことがわかります。

現在、調査中ですので、これからのさらなる知見が得られていくことが期待されます。

（鳥羽正剛）